

やくしまこくりつこうえん 屋久島国立公園だより



2018年10月号

かんきょうしょうやくしましぜんほごかんじむしょ やくしませかいいさん
環境省屋久島自然保護官事務所（屋久島世界遺産センター内）
〒891-4311 屋久島町安房前岳 2739-343 TEL:46-2992, FAX:46-2977

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

ヤクシカ管理とは！？

最近、シカやイノシシによる被害やその対策、食文化（ジビエ）が全国でとりあげられることが多くなりました。屋久島も例外ではなく、ヤクシカによる被害がさまざまな場所でみられ、ヤクシカや生態系などの自然を管理する必要性が高まっています。自然をきちんと管理するためには、かわいいヤクシカを殺さなければならないこともあります。

今回は、そんなヤクシカ管理について紹介します。

★ヤクシカによる3つの被害★

ヤクシカによる被害は、大きくわけて次の3つがあげられます。

・農林業被害

例) 作物や苗木が食害を受けて収穫量が減る。など

・生活環境被害

例) ヤクシカについたダニやヒルが人間に寄生する。
ヤクシカとの交通事故が起こりやすくなる。など

・生態系被害

例) 木の子どもが食べられることで次世代の森林が育たなくなる。など。
ヤクシカが好む植物が集中して食べられることで減り、生物多様性が失われる。



食べられて消失



※食害を受けたヤクシカが好む植物

食害を受ける前（左）と受けた後（右）

★ヤクシカ管理のために行っていること★

以上のようなことを防ぐために、国や県、町、民間などが協力して以下のようなことを行っています。

【調べる】

- ・フンの数などからヤクシカの数を調べる。
- ・植生モニタリングを行って被害の状況や回復の状況を調べる。

【対策する】

- ・捕獲してヤクシカの数を管理する。
- ・柵を設置して植生や農作物を守る。

【話し合う】

- ・科学的知見に基づいて専門家がデータを評価したり、一緒に管理の目標や方法を考えたりする。

忘れてはならないことは、ヤクシカは人間や生態系の敵ではなく、お互いに共存してきた存在だということです。むやみにシカを減らしすぎてはならず、植生の状態やシカの数を調べながら慎重に管理を進める必要があります。

また、人間の命や生態系を守ることも大切ですが、ヤクシカの命を無駄にしない考え方や取り組みも同じくらい大切だということも忘れてはいけません。

★大切なお知らせ★

- ◆昨年度に引き続き、12月に「シャープシューティングの体制によるヤクシカ試験捕獲」を実施します。

小楊枝林道 24 支線と安房林道 63 支線周辺は当日立ち入り規制を実施します。

ご迷惑おかけし申し訳ありませんが、みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- ◆ヤクシカ管理に関する島民向けの普及啓発資料を作成中です。A4 サイズ冊子を予定していますが、内容や配布方法についてのご意見を、右のメールアドレスまでお寄せください。RO-YAKUSHIMA@env.go.jp

- ◆屋久島の象徴でもあるコケに関するミニ展示を、10月から屋久島世界遺産センターで開催予定です。

多くの方のご来場をお待ちしております（入場料無料）。

